

はが

介護予防にいきいき ボランティアのか

宍粟市社協が市より委託を受けて実施している「お達者クラブ」は、高齢者の生きがいづくりに通し、長く元気で過ごしていただくためのとりくみです。

波賀支部では毎回、この事業に多くのボランティアの支援があります。



子育てのお母さんによるハンドベル演奏

午後からグラウンドゴルフをする方と部屋でゲームをする方とに分れる時のお手伝いや話し相手、お茶の準備をする活動支援ボランティア。元保健師さんの健康講話、朗読ボランティアによる朗読、「銭太鼓」、手芸の指導ボランティア

ア、知識や特技を活かしたボランティア。「学童保育」の子ども達の訪問、子育て支援センターに参加している子育て中のお母さんの「ハンドベル演奏」、手品、踊り等のボランティアなど、たくさんの方の関わりがあります。

おかげで、内容のマンネリ化を防ぎ、利用者みなさんにもいろいろな人に出会え、楽しいと好評です。

「お達者クラブ」を担っていただいているボランティア経験が、小地域福祉活動にも活かせるように、地域で取り組む介護予防について、みなさんと一緒に考えていきたいと思っています。

(波賀支部 谷口朱美)



お茶の世話をしている活動支援のボランティア

ちくさ

「千種高校の存続を」 地域住民と文化祭

県立千種高校では、6月21日(土)・22日(日)の2日間、開設60周年記念文化祭が開催され、雨にも関わらず地域住民500名が訪れ、生徒とともに楽しみました。

全校生徒98名の同校は、小規模校の特徴を生かした学校づくりに取り組む中、「生徒数の減少から学校存続の危機」という課題を抱えています。

「千種高校が廃校になったら、千種も活気がなくなる。地域から声をあげていかなければ・・・」とPTA、卒業生

や商工会など各種団体や地域住民有志が模擬店などで文化祭を一緒に盛り上げました。

「多くの方々に協力いただき学校と地域が一体となり、とてもうれしく思います」と生徒会長の堂場恵美さん。

「千種高校の存続」を、私たち地域の問題として捉え、学校と地域が一体となり連携することが不可欠だと思います。生徒たちが、地域の担い手として活躍してくれることを見守っていききたいと思っています。(千種支部 山本めぐみ)



茶華道部によるお茶のお手前浴衣姿でおもてなし



「高校生とふれ合ういい機会になった」と来場者



生徒たちによる売店「おいしいで〜買って」

